

火3クラス、水1クラス、金1クラス、金3クラス

授業科目(ナンバリング)	茶道文化ⅡB(AB202)			担当教員	安部直樹 ※柳井駿平		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
濃茶点前(後半)の習得を通して、日常生活に必要な礼儀作法を身につけることを目的とする。また、フィールドワークへの参加を通して、もてなしについて考える力を培い、客作法を実践することができる。							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	濃茶点前での柄杓の扱い方を理解し、炉と風炉の時期の違いを類別できる。				小テスト	5%	
情報収集、分析力	禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				課題・レポート	10%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	30%	
多様性理解力	茶道実技である「濃茶点前(後半)」の流れを理解することができる。				点前確認	55%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>点前確認の成績を55%とし、濃茶点前(後半)の流れを理解しているかなどから評価する。授業態度については30%とし、濃茶点前(後半)の流れを実践するなど、授業への積極的な参加から評価する。課題とレポートの提出状況については10%とし、ポートフォリオ(manaba)を利用して行う。課題レポートの回答については、回答例を提示しフィードバックする。小テストについては5%とし、5回目と12回目にポートフォリオ(manaba)を用いて行う。</p>							
授業の概要							
<p>点前については、道具の扱い(茶入、仕覆の扱い、柄杓の扱い)を学び、濃茶点前を完成させることを目標とする。教材として、茶道文化研究所作成の動画も用いる。茶道文化ⅢBやⅣBで行われる茶会に客として参加し、フィールドワークを実践する。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,400円の諸経費が必要である。カリキュラム上、茶道文化ⅡBを履修するためには、茶道文化ⅠA・ⅠB・ⅡAの単位を取得することが必須である。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 81～93頁 参考書：嶋内 麻佐子構成DVD『鎮信流 茶道点前』長崎短期大学特色GP関連事業(2007年) 長崎国際大学人間社会学部国際観光学科編『観光の地平』学文社(2011年) 指定図書：飯倉晴武著『日本人礼儀作法のしきたり』青春出版社(2007年)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いを自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・学習として、茶会と茶事の仕組みについて『観光の地平』を読み、理解しておくこと。 ・茶道に関する茶花・道具などにも関心を持ち、日常生活の中で活かす努力をして頂きたい。 							

火3クラス、水1クラス、金1クラス、金3クラス

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	・濃茶点前（前半）復習	茶道文化ⅡA で学んだ濃茶点前（前半）を復習する。 （安部・柳井）	講義概要（シラバス）を確認する。 教科書 pp. 81～89 を読み、 予習・復習をする。
2	・濃茶点前（前半）復習	茶道文化ⅡA で学んだ濃茶点前（前半）を復習する。 （柳井）	教科書 pp. 81～89 を読み、 予習・復習をする。
3	・濃茶点前（後半） （茶碗を元の場所に戻すまで）	茶碗を洗い、元の場所に戻すところまでの流れを確認する。 （安部・柳井）	教科書 pp. 89～91 を読み、 予習・復習をする。
4	・濃茶点前（後半） （茶碗を元の場所に戻すまで）	茶碗を洗い、元の場所に戻すところまでの流れを確認する。 （柳井）	教科書 pp. 89～91 を読み、 予習・復習をする。
5	・濃茶点前（後半） （道具を持ち帰るまで） ・小テスト	道具の持ち帰り方を理解する。 （安部・柳井）	教科書 pp. 91～93 を読み、 予習・復習をする。
6	・濃茶点前（後半） （道具を持ち帰るまで）	道具の持ち帰り方を理解する。 （柳井）	教科書 pp. 91～93 を読み、 予習・復習をする。
7	・濃茶点前稽古	濃茶点前の流れを確認する。 （柳井）	教科書 pp. 81～93 を読み、 予習・復習をする。
8	・濃茶点前稽古 ・客作法復習	濃茶点前の流れを確認する。 客として茶会に参加する際の約束ごとを学ぶ。 （柳井）	教科書 pp. 91～93 を読み、 予習・復習をする。
9	・濃茶点前稽古 ・客作法復習	濃茶点前の流れを確認する。 客として茶会に参加する際の約束ごとを学ぶ。 （柳井）	教科書 pp. 91～93 を読み、 予習・復習をする。
10	・茶会参加	茶道文化ⅢB で開催される茶会に客として参加し、客作法の実践をする。 （安部・柳井）	茶会に必要な作法を確認する。
11	・茶会参加	茶道文化ⅢB で開催される茶会に客として参加し、客作法の実践をする。 （安部・柳井）	茶会に必要な作法を確認する。
12	・炭点前（炉） ・小テスト	炭点前（炉）を確認し、概要を理解する。 濃茶点前の復習をする。 （安部・柳井）	教科書 pp. 81～93 を読み 予習・復習する。
13	・初釜	新年を祝う初釜を実施する。日本の正月や初釜について学び、鎮信流の流儀の特長を示す床の飾り方や、古来松浦家の風習について理解を深める。 （安部・柳井）	祝儀袋のマナーを予習・復習する。
14	・松芳忌	学校法人九州文化学園の創設者である安部芳雄（松芳）先生の遺徳をしのぶ。 （安部・柳井）	教科書 pp. 7～12 を読み、 予習・復習する。 不祝儀袋のマナーを予習・復習する。
15	・点前確認	濃茶点前（後半）についてどこまで理解しているか確認する。 （安部・柳井）	濃茶点前（後半）の完成を目指す。

授業科目(ナンバリング)	茶道文化ⅡB(AB202)			担当教員	嶋内麻佐子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
濃茶点前(後半)の習得を通して、日常生活に必要な礼儀作法を身につけることを目的とする。また、フィールドワークへの参加を通して、もてなしについて考える力を培い、客作法を実践することができる。							⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	濃茶点前での柄杓の扱い方を理解し、炉と風炉の時期の違いを類別できる。				小テスト	5%	
情報収集、分析力	禅語や花について情報を収集し、自己の修養のために役立てることができる。				課題・レポート	10%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力	実技(準備・片付け含む)に取り組む中で、グループの仲間と協調できる。				授業態度	30%	
多様性理解力	茶道実技である「濃茶点前(後半)」の流れを理解することができる。				点前確認	55%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
点前確認の成績を55%とし、濃茶点前(後半)の流れを理解しているかなどから評価する。授業態度については30%とし、濃茶点前(後半)の流れを実践するなど、授業への積極的な参加から評価する。課題とレポートの提出状況については10%とし、ポートフォリオ(manaba)を利用して行う。課題レポートの回答については、回答例を提示しフィードバックする。小テストについては5%とし、5回目と12回目にポートフォリオ(manaba)を用いて行う。							
授業の概要							
点前については、道具の扱い(茶入、仕覆の扱い、柄杓の扱い)を学び、濃茶点前を完成させることを目標とする。教材として、茶道文化研究所作成の動画も用いる。茶道文化ⅢBやⅣBで行われる茶会に客として参加し、フィールドワークを実践する。授業内で使う抹茶・菓子、その他の消耗品など、1,400円の諸経費が必要である。カリキュラム上、茶道文化ⅡBを履修するためには、茶道文化ⅠA・ⅠB・ⅡAの単位を取得することが必須である。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：嶋内 麻佐子著『茶道文化基礎編』九州文化学園茶道文化研究所(2011年) 81～93頁 参考書：嶋内 麻佐子構成DVD『鎮信流 茶道点前』長崎短期大学特色GP関連事業(2007年) 長崎国際大学人間社会学部国際観光学科編『観光の地平』学文社(2011年) 指定図書：飯倉晴武著『日本人礼儀作法のしきたり』青春出版社(2007年)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・茶室での貴重品の取り扱いを自己管理とする。茶道具を必ず持参する。アクセサリは身につけない。靴下を着用する。遅刻・欠席をしない。 ・学習として、茶会と茶事の仕組みについて『観光の地平』を読み、理解しておくこと。 ・茶道に関する茶花・道具などにも関心を持ち、日常生活の中で活かす努力をして頂きたい。 							

水3クラス

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	・濃茶点前（前半）復習	茶道文化ⅡA で学んだ濃茶点前（前半）を復習する。 （嶋内）	講義概要（シラバス）を確認する。 教科書 pp. 81～89 を読み、 予習・復習をする。
2	・濃茶点前（前半）復習	茶道文化ⅡA で学んだ濃茶点前（前半）を復習する。 （嶋内）	教科書 pp. 81～89 を読み、 予習・復習をする。
3	・濃茶点前（後半） （茶碗を元の場所に戻すまで）	茶碗を洗い、元の場所に戻すところまでの流れを確認する。 （嶋内）	教科書 pp. 89～91 を読み、 予習・復習をする。
4	・濃茶点前（後半） （茶碗を元の場所に戻すまで）	茶碗を洗い、元の場所に戻すところまでの流れを確認する。 （嶋内）	教科書 pp. 89～91 を読み、 予習・復習をする。
5	・濃茶点前（後半） （道具を持ち帰るまで） ・小テスト	道具の持ち帰り方を理解する。 （嶋内）	教科書 pp. 91～93 を読み、 予習・復習をする。
6	・濃茶点前（後半） （道具を持ち帰るまで）	道具の持ち帰り方を理解する。 （嶋内）	教科書 pp. 91～93 を読み、 予習・復習をする。
7	・濃茶点前稽古	濃茶点前の流れを確認する。 （嶋内）	教科書 pp. 81～93 を読み、 予習・復習をする。
8	・濃茶点前稽古 ・客作法復習	濃茶点前の流れを確認する。 客として茶会に参加する際の約束ごとを学ぶ。 （嶋内）	教科書 pp. 91～93 を読み、 予習・復習をする。
9	・濃茶点前稽古 ・客作法復習	濃茶点前の流れを確認する。 客として茶会に参加する際の約束ごとを学ぶ。 （嶋内）	教科書 pp. 91～93 を読み、 予習・復習をする。
10	・茶会参加	茶道文化ⅢB で開催される茶会に客として参加し、客作法の実践をする。 （嶋内）	茶会に必要な作法を確認する。
11	・茶会参加	茶道文化ⅢB で開催される茶会に客として参加し、客作法の実践をする。 （嶋内）	茶会に必要な作法を確認する。
12	・炭点前(炉) ・小テスト	炭点前(炉)を確認し、概要を理解する。 濃茶点前の復習をする。 （嶋内）	教科書 pp. 81～93 を読み 予習・復習する。
13	・初釜	新年を祝う初釜を実施する。日本の正月や初釜について学び、鎮信流の流儀の特長を示す床の飾り方や、古来松浦家の風習について理解を深める。 （嶋内）	祝儀袋のマナーを予習・復習する。
14	・松芳忌	学校法人九州文化学園の創設者である安部芳雄（松芳）先生の遺徳をしのぶ。 （嶋内）	教科書 pp. 7～12 を読み、 予習・復習する。 不祝儀袋のマナーを予習・復習する。
15	・点前確認	濃茶点前（後半）についてどこまで理解しているか確認する。 （嶋内）	濃茶点前（後半）の完成を目指す。